

中央大学学員会 中大技術士会支部

ニュースレターvol.45

会員の皆様へ

明けましておめでとうございます。

新しい元号「令和」が幕開けし、令和初の元旦を迎えました。本年は東京オリンピック開催の年でもあり、日本国内が活気にあふれる年になると思います。

2019年も例年のように慌ただしい年でした。特に台風15号、19号の被害は、首都圏近郊に絶大な被害を与え、歴史に残ってしまうような災害になってしまいました。問題視されているのが地球温暖化で、ある臨界点を越えると「修復は困難である！」との説も挙がっています。

そんな世の中でも「技術者としてどの様に考えて行けば良いのか？」を常に考えて行きたいと感じています。

本会では会員の皆様からの投稿をお待ちしております。中大技術士会のホームページ (<http://www.chuo-u-pej.org/>)から投稿用のフォームをダウンロードしていただき、投稿してみてください。それではニュースレターをお楽しみください。

内 容	ページ
巻頭言	2 ページ
■ 「令和二年を迎えるにあたって」：中大技術士会 会長 内藤 堅一	2 ページ
活動報告	3 ページ
■ 幹事会報告	3 ページ
■ CO2環境対策技術研究会活動報告	3 ページ
■ 大学支援部会活動報告	3 ページ
■ 企画部会活動報告	3 ページ
■ 広報部会活動報告	5 ページ
活動計画	5 ページ
■ CO2環境対策技術研究会活動計画	5 ページ
■ 大学支援部会活動計画	6 ページ
■ 企画部会活動計画	6 ページ
技術士第二次試験合格者から	6 ページ
■ 「合格体験記」：田畑琢己さん（建設部門）	6 ページ
リレーエッセイ	7 ページ
■ 「女性陶器デザイナーとの出会い」：杉山尚美さん（経営工学部門）	7 ページ
投稿エッセイ	9 ページ
■ 「小人閑居して、よしなし事を思う」：大澤 勇さん（機械部門）	9 ページ

■ 「令和二年を迎えるにあたって」：中大技術士会 会長 内藤 堅一（建設部門、総合技術
監理部門）

令和二年を迎えるに当たり、2019年（平成31年、令和元年）の総括と令和2年の抱負を申し述べたいと思います。

2019年は平成31年で始まり5月から令和元年に元号が変わりました。2019年は理工学部創立70周年に当たり、これを記念して9月28日（土）に文京シビックホール大ホールで記念式典が開催され、ホテルメトロポリタンエドモントで記念祝賀会が開催されました。また従来多摩校舎で行われていたホームカミングデーを後楽園校舎で、9月29日（日）に開催し、学員懇親会「中央大学の夕べ」が東京ドームホテルで開催されました。



中大技術士会としては、例年通り、ホームカミングデーと理工白門祭に出展しました。ホームカミングデーでは、出店場所に中央大学理事長が来られ、毎年ホームカミングデーに出店してきたことに対する感謝状と記念品が授与されました。理工白門祭は11月2日（土）～4日（月・祭日）に例年通り、後楽園校舎で開催されました。

中央大学では今年度から事業時間が90分から100分に変更になりました。これに伴い講義が半期で従来の15コマから14コマに変更になりました。1年生を対象とした「科学技術と倫理」の講座に2名、今年度から始まった3年生を対象とした「キャリアデザインと倫理」の講座の前半8コマのうち7名、及び従来から行われている都市環境学科4年生の必修科目「技術者倫理」の講座14コマのうち、13名の講師を派遣しました。

技術士一次試験の合格者数を増やす活動を2019年度も実施しました。大学1年生を対象としたオリエンテーションで技術士とは何かを話し、大学在学中に技術士一次試験合格、卒業後4年～7年間の実務経験を積んだら技術士二次試験受験を目指すよう勧めました。2年生、3年生を対象とした技術士ガイダンスでは技術士一次試験の受験票を配布すると共に模擬試験の案内を行い、技術士一次試験の受験を勧めました。

2019年の技術士一次試験は10月13日（日）に行われましたが、東京都と神奈川県の間で台風19号のため中止になりました。その後東京都と神奈川県については、2020年3月7日（土）に再試験が行われることになりました。中大技術士会としては、模擬試験受験者にはメールで、その他の学生には大学のe-plusというシステムを通じて再挑戦を勧めてきました。従って2019年については、まだ全体の合格者数は決まっていませんので、ランクの結果は出ていません。

令和二年は、技術士一次試験の再試験の結果にまず期待したいと思います。講師派遣要請は引き続き受けていきますが、都市環境学科4年生の必修科目「技術者倫理」は前年度で終了し、今年度からは1年生を対象とした「科学技術と倫理」の講座と、3年生を対象とした「キャリアデザインと倫理」の講座の2つになります。

令和二年は、在学生の技術士一次試験の合格者数、全国大学1位をもう一度目指します。在学生に対するオリエンテーション、技術士ガイダンス、模擬試験を効率的に組み立てて従来以上に充実させると共に受験者数の増加、合格率のアップに力を入れていきます。 以上

活動報告

■ 幹事会活動報告

本会では、概ね月に一度幹事会を行い、各行事の計画や方針などについて話し合っています。通常、中央大学駿河台記念会館の会議室で行っていましたが、駿河台記念館の建て替えに伴い、今後は一時移転した学会本部で行う予定です。役員、幹事以外の会員の皆様にも参加していただけますので、是非一度参加していただき、ご意見などお聞かせください。

■ CO2 環境対策技術研究会活動報告

行事名	開催日程	活動概要
第2回幹事会 出席者 5名	2019年11月21日(木) 18:30~20:00 中大後楽園校舎5310号室	話題提供：金川顧問「日本経済をデフレから脱却する道」 第35回研究会の企画
第35回研究会	R2年1月16日(木)	見学先：東芝未来科学館 交流会：川崎駅周辺で計画中

■ 大学支援部会活動報告

項目	内容
「技術者倫理」講義	9月25日より講義開始 10月2日から1月8日まで13名の講師を派遣した。

■ 企画部会活動報告

項目	内容
理工白門祭	日時：2019年11月2日(土)~4日(月) 会場：後楽園キャンパス6号館1階ロビー 「無料相談会」として出展

■ ホームカミングデー・理工白門祭 報告

1. ホームカミングデー

2019年度の第29回ホームカミングデーは、2019年9月29日(日)に理工学部創立70周年と法学部都心移転を記念して理工学部キャンパスにて開催されました。

中大技術士会は今年もホームカミングデーの無料相談コーナーに出店しましたが、八王子キャンパスとは異なり、5号館1階教室での出店となりました。例年とは異なる形での開催となりましたが、なかなか参加者も入りにくいような状況でしたので、実際にはあまり中大技術士会ブースへの来



写真1 会場の5号館1階の無料相談コーナー

訪者が少ないというのが現状でした。

ところで、今回のホームカミングデーで一つ驚いたことがありました。中大技術士会の無料相談コーナーに、大学の事務局の人が突然来られて、「これから感謝状贈呈式を行います。」とってきました。何のことかわからず、事務局の人にも具体的な内容は知らないということで、とりあえず感謝状を取り出してみると、ホームカミングデーにて長年無料相談会に参加しているので、感謝状をいただけることがわかりました。ということがわかってきた間に、感謝状贈呈者の中央大学の大村雅彦理事長も教室にお見えになり、にわか感謝状贈呈式が急遽執り行われ、記念の写真撮影も行われました。誰も何も聞いて無く、事前の連絡も無く、突然に行われましたので、かなり驚きましたが、ありがたく感謝状を頂戴致しました。

感謝状の他に記念品もいただきましたが、記念品は輪島塗の写真立てのようなものでした。



写真 2 大村理事長からの感謝状贈呈式

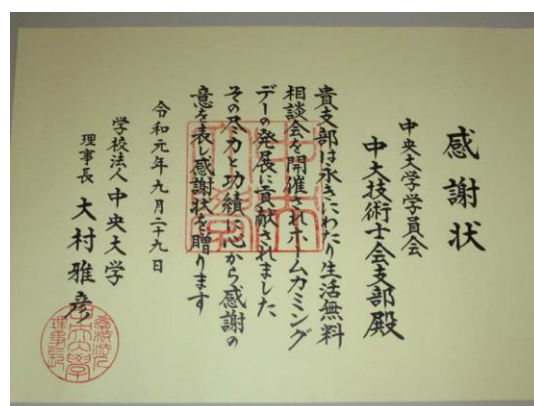


写真 3 感謝状

2. 理工白門祭

2019年11月2日～4日の3日間に後樂園キャンパスにおいて開催された第53回理工白門祭に、中大技術士会は例年通り出展しました。中大技術士会が最初に理工白門祭に参加したのは、2008年の事ですので、今年で12回目の出展となります。

出展場所は、6号館1階の学部事務室の前で、ここも例年同じ場所にて出展しています。

出展内容は、技術士制度、技術士試験の説明と受験相談、一般的な技術相談を主な目的としていますが、技術士第一次試験の受験者を増やすために、学内で模擬試験を実施したときに余分に作成した模擬試験問題を配付することも目的の一つになっています。

相談会とともに技術展示も行っていて、今年は昨年に引き続き会員所有の古い計算機を「昔(40年以上前)の計算機展」として展示するようにしました。昨年は理工ホームカミングデーが理工白門祭開催期間中に開催されるということで、1975年～2016年に発売された関数電卓を展示しましたが、今年は1980年以前に販売された計算機(一般電卓、関数電卓、機械式計算機(タイガー計算機等)、計算尺、パソコン(NEC PC-8001)等)の展示と説明を行いました。

中大技術士会は、ホームカミングデーと理工白門祭に来年度も出店(出展)する予定ですので、中大技術士会会員の皆様のご来場をお願いします。



写真4 中大技術士会ブース



写真5 来場者への説明

■ 広報部会活動報告

項目	内容
サーバー運営	①メーリングリストのメンテナンス実施 ②新規会員のメーリングリストへの登録、アドレスの変更等を実施
ニュースレターの発行	ニュースレターvol.44 作成、発行
HP新規掲載	①ニュースレターvol.44 の掲載
その他	①新規会員登録 準会員 1 名 ②Web サーバーの更新手続きを 10 月、12 月に実施した。
会員の皆様へのお願い	① 就職、転勤、転職、転居等により連絡先が変更になった場合、幹事会宛てにご一報をお願いします。詳細はホームページ「入会のご案内」をご参照ください。連絡先：toiawase@chuo-u-pej.org ② ニュースレターへの会員の皆様らの投稿をお待ちしています。近況報告、受験体験談、2020 年東京五輪への期待、何でも構いませんので、積極的な応募をお待ちします。 ③ 会員相互の交流を深めることを目的に比較的気楽に投稿できる「 <u>趣味</u> 」を共通テーマとしたリレーエッセイを (Vol.36) より開始しました。執筆依頼がありましたら、躊躇せずに投稿をお願いします。また、リレーエッセイの投稿をご希望の方は toiawase@chuo-u-pej.org まで、お知らせください。意外な繋がりが生まれるかも知れません。

活動計画

■ CO2 環境対策技術研究会活動計画

行事名	開催日程	活動概要
R1 第 3 回幹事会	R2 年 1 月 20 日 (月) 18:30~20:00 中大後楽園校舎 5310 号室	第 35 回研究会の報告 第 36 回研究会の企画

■ 大学支援部会活動計画

行事	日程	内容
大技連からのヒヤリング協力	2月上旬	大技連から、大技連の参加大学に技術士資格と大学の協力内容についてヒヤリングがある。 2月上旬に実施されるので、協力を予定している。

■ 企画部会活動計画

行事	日程	内容
中大技術士会 第2回講演会	未定	未定
法曹会との交歓会	未定	今年度は中大技術士会が幹事担当のため、中大技術士会で企画する

技術士第二次試験合格体験記

■ 「合格体験記」：田畑琢己（建設部門）

1. 受験の動機

私は平成12年度の技術士試験（旧制度最後の試験）に合格しました。20年前の合格体験記ですが、これから受験する方の参考になればと思い筆をとりました。技術士を受験したときの経歴は、東京農工大学農学部林学科卒業後（昭和62年）、埼玉県に入庁（昭和63年、林業職）し、林道事業（昭和63年4月から平成5年3月）、自然公園事業（平成5年4月から平成9年3月）、林業普及指導事業（平成9年4月から平成13年3月）です。



当時、技術士の受験資格は大学卒業後の実務経験が7年以上であり、受験資格があっても公務員が30歳代で合格するのは困難でした（実務経験が少ないことは口頭試験でもしつこく聞かれました。）。

技術士取得を急いだのは、法と科学技術の両方の専門家を目指したため、技術士を取得してから法律の研究を進めたかったという理由からです。

2. 受験部門の選択と受験勉強の取組

ここでは紙幅都合での経験論文に絞ります。前述したように、大学の林学科を卒業し県庁に林業職で入庁した私は、本来、森林部門で受験した方が受験対策を進めやすかったと思います。一方、森林部門で合格しても技術士を活用できる場面が限定されていることから、活用できる可能性が大きい建設部門を選択しました。論文では直前に担当した自然公園事業を取り上げました。公園事業は建設部門の選択科目（都市及び地方計画）に含まれるからです。なお、公園事業は環境部門や森林部門の論文でも取り上げることができます。

受験勉強は市販されている参考書に掲載されている論文を自分の実務経験に置き換えて作成しました。これは、合格論文の型に合わせた論文を書くためです。作成した論文はCEネットワーク（<http://cenetwork.sakura.ne.jp/>）で添削してもらいました。CEネットワークは、所属している会員が多く、コンサルタントの他にも公務員がいるため受験者に合わせた対応をしてくれるからです。

3. 合格後

平成 13 年 2 月に合格してから、平成 14 年 4 月に中央大学法学部に学士入学し、平成 16 年 3 月に卒業し、その後、法と科学技術の両面から公共事業を研究して平成 23 年 3 月に法政大学大学院で博士（政治学）を取得しました。博士論文は技術士（建設）の有資格者として、公共事業が争われた裁判例を科学技術の視角から分析して作成して、この研究の成果は 3 冊の単著として出版しました。

4. これから受験される方に

技術士は技術者として最高位の資格であり、立場に関わりなく必ず取得するべきだと思います。私は受験勉強を通じて、知識の取得や実務経験を客観的に見直すことができました。技術士を取得してから技術士会などの同じ専門家の中で更に技術力の向上を目指しても良いし、私と同じように他の分野との境界領域に挑戦しても良いと思います。この合格体験記が少しでもこれから技術士合格を目指している方の参考になれば幸いです。

リレーエッセイ

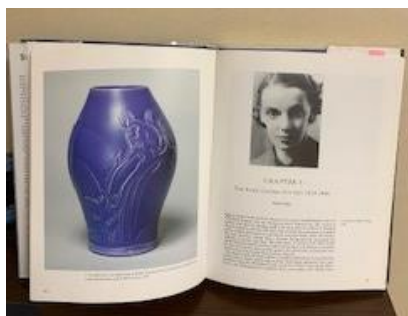
杉山尚美さんからのリレーエッセイをお届けします。

■ 「女性陶器デザイナー スージー・クーパーとの出会い」：杉山 尚美さん（経営工学部門）

2010 年頃から「リケジョ」がメディアで使用され始め、一時期流行したのを覚えています。日本の社会や企業において技術分野で活躍している女性は少なく、特に女性技術士は圧倒的に少ない状況です。社内も同じ状況で、昨年からは社内での女性技術士・修習技術者に声かけして女性技術士交流会を開催しています。技術者ではないのですが、私が愛する陶器のコレクションがきっかけで知った 20 世紀を代表するイギリスの女性陶器デザイナーであり実業家、スージー・クーパーについて話をしたいと思います。



1980 年代後半から日本でもロイヤルコペンハーゲン、ウェッジウッド、リチャード・ジノリ、マイセンなど、ちょっとした西洋陶器ブームがありました。私もその頃から陶器を鑑賞・収集するのが趣味となり、メーカを代表するティーカップを手にいれました。それでは飽き足らず、関連雑誌を読んでいる中で、知ったのがスージー・クーパー（Susie Cooper 1902-1995 年）です。彼女の作品は西洋アンティークに分類されますが、伝統的な骨とう品とは違い年代的には新しく、イギリスの一般家庭向けに販売されたので市場に数がでています。そのため一般の人が店舗やネットで買えるものです。日本では 1995 年に雑誌「スージー・クーパーのある暮らし」で大ブレイクしました。スージー・クーパーに虜になる魅力は何だろう？と考えたら、風合い・色づかいに何とも言いえない温かい雰囲気があり、家庭の食卓で毎日使われていたという点で身近に感じるところです。さて、彼女が有名になるまでの生い立ちを調べてみました。



父は地方の名士で裕福な家庭に生まれ育ちましたが、11歳の時にその父親が他界、家業を手伝いながら美術スクールに通い、19歳で地元の陶器製造会社（グレイ社）に入社しました。グレイ社では見習いの絵付師（ペインター）から始まりましたが、じきに手描きで花柄のデザインを制作するようになり、ヒット作を生み出し、27歳で独立して Susie Cooper Pottery を設立しました。独立したのは、装飾だけでなく陶器の形状もデザイン

する夢を叶えるためです。時代は英国では初めて女性に選挙権が与えられ、女性が社会に進出する風潮が高まった頃です。とはいえ独立した1929年は世界恐慌が始まった年です。女性が起業し会社を経営していく上での多くの苦勞を、彼女は陶器デザインへの情熱で乗り越えていったのだと思います。

スージー・クーパーの食器は全て彼女自身がデザインしたもので、品質の高さや芸術性が評判を呼び、英国王室でも愛用されました。現エリザベス女王の母君である当時のエリザベス皇太后陛下もスージー・クーパーの作品を愛用し、「スージー・クーパーのない家は完全じゃないわ」という言葉を残しているほどです。1966年以降はウェッジウッド社のデザイナーとなり、そこで発表した「グレンミスト」は2002年まで製造されました。「グレンミスト」は”谷間の霧”という意味を持ち、霧深い谷間にひっそりと咲いている花、淡く薄いブルーの可憐で美しい花をイメージしていて、今は残念ながら廃版になっていますが、スージー・クーパーのデザインでは私のお気に入りの中の1つです。（写真右）



購入したカップは時には「貫入」が見られます。これは、焼かれた後に陶器の温度が下がっていく過程で、陶器素地と釉薬（うわぐすり）の収縮率の差で生じる釉のひび模様のことで、割れる時のひびや傷とは異なります。この貫入も一種の装飾とみなされて鑑賞上の見どころです。また、カップやソーサの裏にある刻印を気にかけてはありますか？「バックスタンプ」と呼ばれるもので窯や年代ごとに異なり、その製品が作られた年代・製造方法などを伝えてくれる貴重な情報源です。自分が持っているカップはいつ頃つくられたのか、どうやってつくられたのか、そんなことがわかるとより愛着が増します。（写真左）



購入したお気に入りのカップは、飾るだけでなく実際に使うのも楽しいものです。世界各国にはいろいろな「茶」があります。緑茶・ウーロン茶・紅茶などのお茶は「カメリアシネンシス」というツバキ科の茶樹からできていて、この樹の生葉を乾燥・発酵させてつくる際、発酵度合いによって緑茶、ウーロン茶、紅茶などさまざまな種類のお茶になるそうです。完全発酵系が紅茶、半発酵茶がウーロン茶で不発酵茶は緑茶、そしてジャスミン茶のように花で香りづけした”花茶”があります。陶器と同様、はまってみると「茶」の世界も奥深いものだと感じます。私は紅茶が大好きで、旅行や出張先で紅茶専門店を探して買うのが楽しみです。特にシンガポールに本店がある TWG のフルーツ・花・スパイスをブレンドした豊富なフレーバーが好きで、嬉しいことに最近横浜にも店舗ができて気軽に買い足しができるようになりました。

いつかイギリスのアンティーク市でスージー・クーパーを自分の目で掘り出したい、というの

が私の夢の一つです。遙かイギリスでの陶器の歴史や陶器市での買い物、紅茶の種類などに想いを馳せながら、お気に入りの紅茶とティーカップでリラックスして過ごす休日は、わたしの大切な至福の時間です。

次回のリレーエッセイは在学時に研究室で助手をされていた宗 裕二さん（現在は日本能率協会コンサルティング）をお願いいたします。

投稿エッセイ

大澤 勇さんからのエッセイをお届けします。

■ 「小人閑居して、よしなし事を思う」： 大澤 勇さん（機械部門）

個人の趣味の話で恐縮です。時間が許されるなら短時間、お付き合いいただくと幸いです。私は、この数年本を乱読して時間を消費している。本は近所の市立図書館のホームページにアクセスして予約し借りている。借りるペースは2週間で4冊、年間100冊程度である。娯楽が目的の読書だから、あまり役立たない雑学が増えるだけである。それでも購入したくなる本はあるもので、藤沢周平全集(23巻)等は手元に置いておきたくなって購入した。先日、友達と雑談のなかで佐倉義民伝が話題になった。



佐倉惣五郎(宗五郎)



宗吾霊堂(東勝寺)

- 彼曰く『惣五郎ゆかりの佐倉を歩いていたら、親切に案内してくれる人物に出会った。別れ際に名前を尋ねたら“木内”と名乗って去っていった。惣五郎の血縁者だと思う。佐倉惣五郎は実在の人物である。』(佐倉惣五郎の本名は木内惣五郎とされている)
- そこで私は言った『それは、あなたが担がれたのだよ。あれは、歌舞伎や講談の世界の話さ。そもそも農民代表の名主が将軍に駕籠訴などできるわけではない。駕籠に近づく前に召捕られてしまうよ』(義民伝では駕籠に乗った将軍家綱に訴状を手渡したとされる)
- 彼曰く『いや史実だ。昔は正義心が強く、意表をついた行動で目的をはたす人がいたのだ！』
- 私曰く『もしも史実なら、刺客かもしれない者が将軍に接触した大事件で、月番者中や警護担当者は切腹ものだ。それなのに講談本以外に記録がないのは、作り話だからさ』
- 彼自信を込めて曰く『江戸幕府にとって大不祥事だからこそ、徹底的に公式記録を抹殺したのだ。不都合な証拠を破棄するやり方は安倍政権が立派に踏襲しているではないか。江戸時代も証拠を抹殺すれば、事実もなかった事にできたのだ。』

安倍政権による、止まる事のない記録廃棄行為を見ると、友人の説が正解に思えてくる。いい

歳をして、こんな取るに足らない問答をしている・・・日々仕事で多忙な技術士諸兄から見れば、極楽トンボもよいところだ。

ところで、図書館が無料の貸本屋化して、出版業界不振の要因になっているとの指摘がある。先日、浜松国際ピアノコンクールを描き昨年直木賞と本屋大賞をダブル受賞した、恩田 陸の小説『蜜蜂と遠雷』を借りようとしたら、図書館所有の 16 冊全てが貸出中で更に 20 人待ちと知ってびっくりした。



市立図書館

図書館の貸本屋化の指摘も頷ける。ある出版社の社長が、せめて文庫本は図書館に置くのは中止してほしいと言ったそうである(文庫本は単行本の発売の数年後に低価格で発売され、携帯に便利なので私はよく利用する)不振の原因が図書館のせいなら、何らかの対策は必要である。

例えば、貸出回数に応じて図書館が出版社に対価を支払い、貸出も有料化する。これも良い案かもしれない。

何故なら、娯楽として読まれる本は貸出回数が多く、調

査研究等で参照される本は貸出禁止の場合が多い。娯楽には対価が必要だと思う。図書館の一部機能を有料化する訳である。しかし有料化も若年層や児童書への配慮は必要だろう。書物は SNS 経由の情報等と違い高密度で責任の所在が明確な伝達媒体であり、広がって欲しいものである。昨年 9 月に作家の佐藤雅美氏が亡くなった。1941 年生まれで、ほぼ同世代である。彼の小説は江戸の経済人を描いた硬派の著作も多いが、『物書同心居眠り紋蔵』シリーズなどは、江戸の職位が低い今風に言えば裁判所書記官の日常を描いたもので、役所勤めの江戸庶民の暮らしぶりが分り、楽しい小説である。マンガ家のさくらももこ氏も一昨年 50 歳前半の若さで亡くなった。。そういえば、地元で医師をしていた中学の同級生も死去した。とても評判が良かった小児科医で、我家の子供も随分世話になった。こう見てくると、社会に必要な人物ほど早死にし、あまり必要とされない私などが生残っている様で申し訳ない気分になってくる。底冷えする冬の夜長、『小人閑居して不善をなす』・・・事はないが、よしなしごとを思っている。

ニュースレターへのご意見、ご感想をお待ちしています。 ⇒ toiawase@chuo-u-pej.org
2020 年 1 月号 中大技術士会 広報部会 発行